

東北大学医学部保健学科 同窓会新聞

発行人 進藤千代彦
発行所 東北大学医学部保健学科
仙台市青葉区星陵町2の1
編集人 東北大学医学部保健学科同窓会新聞編集委員会
編集委員 半藤徹也、石塚裕也、武石陽子

新任の先生のご挨拶

今年度に入り、新たに6名の先生が本学科の看護学専攻に就任されました。ご挨拶を頂戴しましたので、ご紹介いたします。

地域ケアシステム看護学分野 講師 原田 奈穂子



保健学科の皆様、はじめまして。地域ケア看護学分野の講師として着任いたしました原田奈穂子でございます。私は98年に聖路加国際大学を卒業した後、一般・救急外来で臨床経験を積んできました。その後米国のペンシルバニア大とボストンカレッジにて大学院教育を修めました。杜の都に来る前は、所沢にある防衛医科大学校にて教職に携わりました。宮城県は2011年東日本大震災に際して、3月14日から気仙沼市へ医療支援での関わりを持つまでは足を踏み入れたことがない土地でした。悲しい契機ではありませんが、この5

I am a new lecturer working in the Department of Community Health. This is the first time I am working in Japan, and the first time working in academia since I completed my Ph.D. in Australia 10 years ago. After working for some time in the pharmaceutical industry, I wanted to do work that is altruistic and can have a positive impact on the population. For this reason, I joined the Centers for Disease Control



地域保健学分野 講師 シンディー チュー

年の間、マクロ・ミクロ関わらず地域のヘルスケアシステムの在り方や人の健康と健やかさについてかけがえない学びとケアの実践の場を、宮城の方々に頂きました。そして、4月より本学で、宮城をはじめ東北地区のみならず全国で、世界で活躍するであろう学生さんと共に学ぶ機会を頂けたことを嬉しく思います。米国への学位留学、国際保健、危機管理、国際人道支援における質の保証と説明責任などに興味のある方はいつでもオフィスにお出で下さい。お待ちしております。

and Prevention in the United States and started moving my career towards public health. When I worked there, my two global health projects in Ethiopia and Sierra Leone changed me. I felt a strong calling to work in developing countries. So, I decided to put all my belongings into a storage unit in Atlanta and start my nomadic life. First, I worked with Doctors Without Borders as a field epidemiologist to work on problems ranging from healthcare exclusion following an interethnic conflict in Myanmar to monitoring epidemic-prone diseases in the Democratic Republic of Congo. Besides field work, I also felt there was much to do at a country-level. Therefore, I also worked at the World Health Organization in Lao People's Democratic Republic to provide technical support to the Ministry of Health in their preparedness, detection and response to emerging infectious diseases and public health emergencies. I have always loved working with my staff and students, assisting them to achieve their career dreams. I am deeply grateful and humbled to be here, at Tohoku University, and I will do my very best to serve our students.



地域保健学分野 助教 青山 真帆

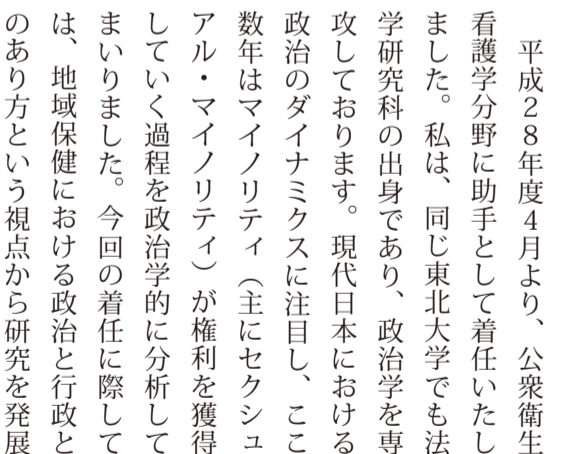
平成28年4月より小児看護学分野の助手として着任いたしました。私は東北大学病院看護部Nurse支援室の一員としても働いており、



小児看護学分野 助手 菅原 明子

4月より地域保健学分野の助教に着任いたしました。本学の1期生として入学、卒業後は、聖路加国際病院で泌尿器科・婦人科メインの外科系病棟で勤務を経て、大学院へ進学いたしました。修士ではがん統括性のリンパ浮腫、博士では緩和ケアの質の評価、がん患者遺族の悲嘆(グリーフ)や抑うつをテーマに研究に取り組んでまいりました。大学院生時代には英国グラスゴー大学に留学し、リンパ浮腫マネジメントとともに看護学教育や研究について学ぶ機会にも恵まれました。現在も遺族のグリーフを中心にがん・緩和ケアの研究に取り組んでおります。ここに至るまでに、途中で辛いと思ったり、挫折しかけたりしたことも多々ございましたが、母校で研究者として大学教員としてのキャリアをスタートできること、とても感慨深いものがございます。卒業生として、自分の後輩でもある学生のため、学生により近い立場から本学の発展に寄与してまいりたいと思います。ご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

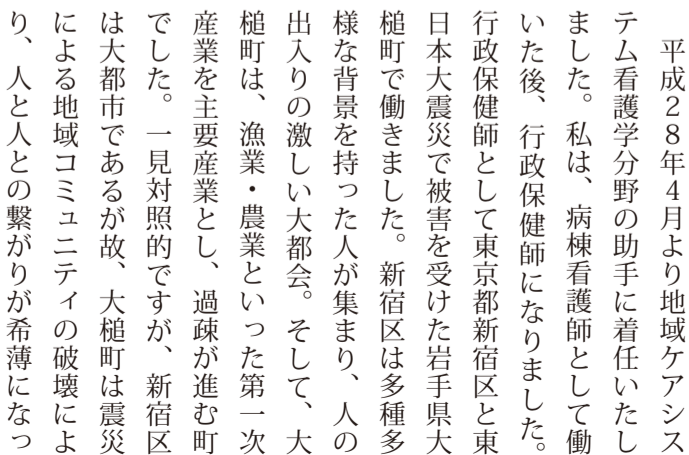
平成28年度4月より、公衆衛生看護学分野に助手として着任いたしました。私は、同じ東北大学でも法学研究科の出身であり、政治学を専攻しております。現代日本における政治のダイナミクスに注目し、ここ数年はマイノリティ(主にセクシュアル・マイノリティ)が権利を獲得していく過程を政治学的に分析してまいりました。今回の着任に際しては、地域保健における政治と行政とのあり方という視点から研究を発展的に拡大させていければと考えているところです。地域保健といった領域でジェンダー・ステレオタイプがどのように影響を及ぼしてきたのか、



公衆衛生看護学分野 助手 竹田 香織

臨床現場に学生の皆さまを受け入れる側、送り出す側の2つの側面を持つ少し変わった立場におります。学生の皆さまとは主に小児看護学実習や卒業研究を通してお会いする機会が多いと思います。特に小児看護学実習では子供達やそのご家族から多くのことを学び、驚きと発見喜びの連続です。また、子供たちが持つ無限大の可能性を実感する毎日です。学生の皆さまとはそのような体験を共に積み重ね、学び合いたいと思います。今後ともどうぞよろしくお願いたします。

平成28年4月より地域ケアシステム看護学分野の助手に着任いたしました。私は、病棟看護師として働いた後、行政保健師になりました。行政保健師として東京都新宿区と東日本大震災で被害を受けた岩手県大槌町で働きました。新宿区は多種多様な背景を持った人が集まり、人の出入りの激しい大都会。そして、大槌町は、漁業・農業といった第一次産業を主要産業とし、過疎が進む町でした。一見対照的ですが、新宿区は大都市であるが故、大槌町は震災による地域コミュニティの破壊により、人と人との繋がりが希薄になったと言われていること、そして、その様な課題を抱えながらも、地域を愛し、地域を良くしようと活動する住民がいることは共通でした。私は、



地域ケアシステム看護学分野 助手 松永 篤志

ということについては、おそらく看護学からも政治学からもまだまだ研究の余地があるものと思います。こうした部分に焦点を当てて、認識も方法も異なる分野を跨いだ思考をどう紡いでいけばよいか、私にとっては毎日が挑戦の連続です。至らぬ点も多く、ご迷惑をおかけすることもありますが、ご指導のほど、どうぞよろしくお願申し上げます。



今年7月27、28日に、オープンキャンパスが開催されました。今年も星陵キャンパスには多くの高校生やその保護者が来場されました。実行委員の皆さんは、学部生・大学院生・教員と、多くの人々を動かし、オープンキャンパスを大成功に収めました。実行委員長より、今年のオープンキャンパス当日の様子や感想を伺いましたので、ご紹介いたします。

オープンキャンパス

『地域を愛し、地域を良くしよう』と活動する住民はなぜそのような活動ができるのだろうか』ということに興味を持っています。

東北大学では学生の皆さんに、行政保健師の活動に興味を持っていただくお手伝いができればと思うと共に、興味を持ってくださった学生さんと一緒に研究ができればいいなと思っております。

教員1年目で至らない点も多いとは思いますが、どうぞよろしくお願いたします。



東北大学医学部・医学系研究科のオープンキャンパスについて、ご報告致します。

今年度も7月末に開催された本学部・研究科のオープンキャンパスには、本学を志望校の一つとして考えている高校生を主な対象として、医学部のそれぞれの学科・専攻ごとに学習および研究内容、大学生活についての紹介を行いました。実習体験コーナーでは、血圧測定などの看護技術を実際に訪れた高校生に体験してもらって看護学専攻の企画、放射線量を計測し放射線被ばくについて考える放射線技術科学専攻の企画、さらに血糖を測ることで生活習慣病を考える検査技術科学専攻

実行委員長 看護学専攻4年 上池 那奈



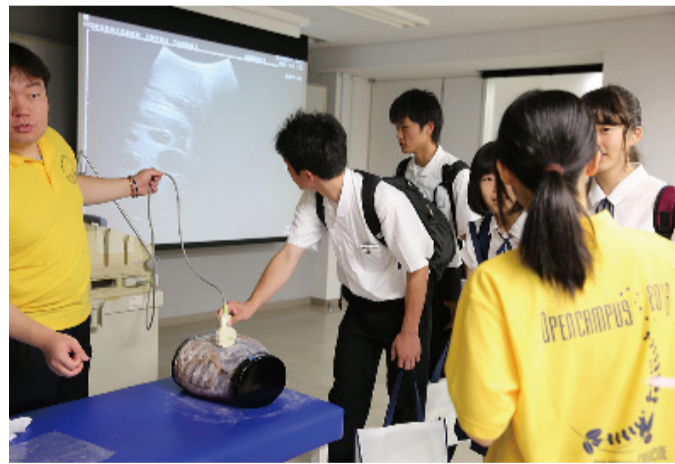
の企画など、その他にも各専攻の特徴を理解していただけるような企画を行うことが出来ました。また、高校生やオープンキャンパスにいらっしゃった方が在校生に入試体験談や大学生生活について相談できるコーナーでは、学生が自身の受験や学生生活での経験を踏まえて積極的に話すことによって、日頃あまり意識していなかった学習面・生活面を改めて見直すことができるよい機会になったのではないかと考えています。

毎年多くの方が来場されるため、昨年は会場に入るまで炎天下の中お待ちいただいたということがありました。今年度はその反省を活かし、オープンキャンパスを運営する委員会を中心に来場者の方がより多くの企画を見て回っていただくことがで



きるよう時間や誘導を工夫することができたため、来場者の方に多くの企画を楽しんでいただけたのではないかと思います。

小雨の降る中、キャンパス敷地内の建物等を案内するツアーのガイドをするなど各々の部署で忙しく苦労したこともありましたが、来場者の方に医学部そして保健学科の魅力が少しでもお伝えすることが出来たのであれば非常に有意義なオープンキャンパス2日間



であったと思います。

最後になりますが、今年度のオープンキャンパス運営にあたり、教員や卒業生、教務課をはじめとする事務職員の皆さま、そして第一にたくさんの方の力を寄せてくれた学部生・大学院生に感謝致します。



ウェアセレモニー

今年7月26日に、看護学専攻のウェアセレモニーが行われました。ウェアセレモニーでは実習を間近に控えた看護学専攻3年生の皆さんに教員から医学部ロゴマークの記念バッジが授与されます。式当日は、下瀬川医学部長、清水保健学科長からの激励の挨拶の後、代表学生が決意表明を行いました。代表を務めた学生さんの決意表明の言葉を紹介いたします。

看護学専攻3年

飛田 洋輔



本日のウェアセレモニーにあたり11期生を代表して決意表明をいたします。

先日私たちは10月からの看護専門領域実習に先立ち基礎看護学実習を終了しました。私が基礎看護学実習で受け持った患者は、難治性の疾



患を抱え悪化と軽快を数年にわたり繰り返して、治療に専念する目的で入院した方でした。私は患者が発する言葉をひとつひとつ傾聴することを心がけました。実習が進み打ち解けていく中で、その方は病気が家族へ遺伝するのではないか、退院したらまた症状が悪化するのではないかという不安を抱えていることが少しずつわかってきました。そこで実習の担当看護師と病気に関する正しい知識を伝え、過度に不安に思ふ必要はないこと、病気が子供に遺伝するリスク



は少ないことを説明しました。退院後の生活については、治療を続けていけば症状が落ち着いてきた状態で日常生活を送ることが可能だと伝えました。その援助に対し、患者から「私たちがもっているたくさんの方の不安を安心に変えるのも看護師の大きな仕事なんだよ」と言っていただけでした。この先の実習でも患者に安心を与えられるよう知識、技術、態度をさらに磨き、かかわっていきたいと考えます。

患者とその家族の気持ちを押し量ることが出来る豊かな人間性を持った看護師に近づくための一歩として、これからの看護専門領域実習を11期生全員、誠意をもって全力で取り組むことを誓います。

平成28年度保健学科同窓会総会および帰朝報告

平成28年7月1日(金)午後5時30分から保健学科A棟大講義室にて平成28年度保健学科同窓会総会が開催されました。昨年度と同様に二部構成で、第一部では以下のような議題で議事を進行し、役員及び予算が決定しました。

開会のご挨拶

会長 進藤 千代彦先生

議長

丹野寛大 (臨床生理検査学分野)

副議長

徳永正之 (医用物理学分野)

保健学科同窓会新役員人事の件

会長 進藤千代彦

副会長 村崎晶洋(東北大学病院)

土田恒平 (医化学分野)

武石陽子

(ウィメンズヘルス看護学分野)

幹事

半藤徹也 (臨床生理検査学分野)

監事

吉澤彰 (公衆衛生看護学分野)

石塚裕也(画像解析学分野)

平成27年度の決算報告

平成28年度の予算案

第二部は「帰朝報告」と称し、齋藤秀光先生(精神看護学分野)の司会進行のもと、各専攻から一名ずつ、現在の生活や国際学会での発表の様子等を報告していただきました。ここで、3名の方の帰朝報告の内容を少しご紹介させていただきます。



放射線技術科学 医用画像工学分野

富永 千晶

私は保健学科を卒業後、修士課程に進学し現在は研究活動を中心に院生生活を送っています。研究活動は日々の実験や解析の他に、セミナーや学会へ参加することがあります。特に学会への参加は、他の研究者の



方の研究について勉強することができ、更に自分の研究について知って貰えたり意見を聞くことができたという貴重な場になっています。

私が参加した学会の一つが北米放射線学会という学会で、通称RSNAと呼ばれています。RSNAは毎年11月末から12月初めにアメリカのシカゴで開催される、医学放射線関連の学会では最大級の規模の学会です。私は発表しませんでした。世界の研究者の方々がどのようなことを研究しているか知ること、また最新の研究のトレンドを知ることにより自分の研究の参考になればと思います。研究発表は専門性の高い内容で盛んに議論が交わされており、日本の学会とは異なる雰囲気を感じることができました。また、機器展示の規模も非常に大きく、各医療機器メーカーの最新の機器や技術に触れることができ勉強になりました。

今年はこのRSNAで発表する機会を得ることができました。初めての英語発表であり不安もありますが、有意義な経験となるようにこれまでの経験を活かして良い発表をしたいと思えます。



看護学
周産期看護学分野 修士2年
安部 葉子

先日、平成28年度保健学科同窓会にて、僭越ではありますが帰朝報告をさせて頂きました。現在は医学系研究科周産期看護学分野の修士課程に在籍しております。現在研究段階であり、他の方のような国内外での研究成果発表の経験もなかったため、卒業後の助産師としての活動、渡豪中の経験などをお話させて頂きました。

私は第二期生として看護学専攻で看護・助産を学び、卒業後は助産師

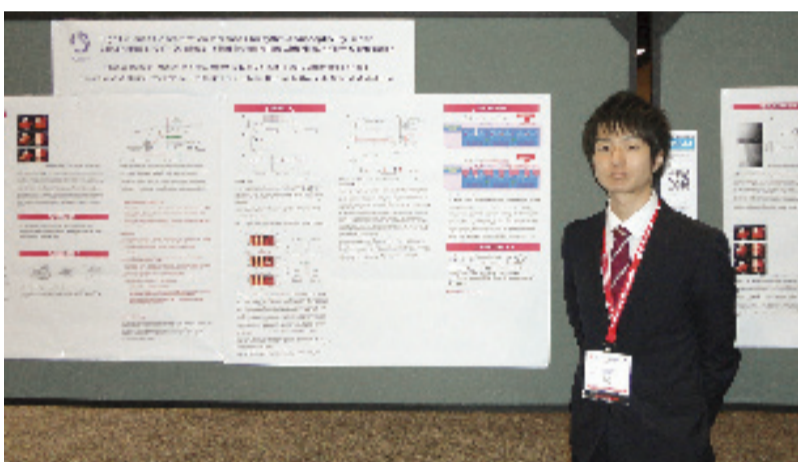
富永さんの研究室での様子



として勤務していました。仕事をしている中であるきっかけがあり、諸外国と日本の出産や育児の違いなどに興味を持ち、実際に現場を見てみたいと思ったため、豪州に留学しました。渡豪してからは語学学校に通い、一般英語と医療英語を勉強しながら、病院見学や出産の立ち合いなど、貴重な機会に恵まれました。滞在最終地のパースでは、地域の助産師が行っている母親教室や両親学級に参加してもらい、そこで出会った方の自宅分娩にも立ち合わせて頂きました。特に印象に残っていることは、助産師が妊婦さんや家族に対し、自分のことは自分で情報を得て、自分としての希望を持って出産を家族で乗り越えてほしいという、主体性を重視した考えを大切に伝えていたところでした。豪州は広大な自然が魅力の国ですが、人々もまた、心の広い、暖かい人が多い場所でした。海外での生活は私にとつてとても有意義なものでした。得た経験を大切

私は平成26年度に東北大学の検査技術専攻を卒業し、大学院博士前期課程に進学しました。大学院では「グルコース濃度の上昇が心臓の不整脈や収縮性に与える影響」について研究させて頂いております。

そして、平成27年11月7日



検査技術科学
臨床生理検査学分野 修士2年
半藤 徹也



にし、今後は研究や臨床での関わりを通して、社会に還元出来ればと思っています。

今回は貴重な場を頂きありがとうございました。



11日、アメリカのフロリダ州オーランドで開催されました「American Heart Association (AHA) Scientific Sessions 2015」にて、日々の研究結果を報告して参りました。初めての海外、国際学会、英語での発表、外国人との質疑応答、と初めてのことが多々あり不安でしたが、それが楽しみにも感じていました。発表は、90分間ボスターの前に立ち適宜質疑応答をするという形式でした。初めのうちは緊張のあまり、上手く伝えることができませんでした。それでも外国人の方々には内容に興味を示し、一生懸命私から引き出そうと何度も質問してくれたおかげで、最後のほうには自信を持って発表することができました。今回の学会を通して、伝えることの難しさを実感したと同時に、自信を持って堂々と話せ

◆保健学科同窓会について
 東北大学秋友会(しゅうゆうかい)は、創立100周年を迎えた2007年に次の大学づくりの礎として東北大学校友会として発足しました。同窓生に加えて、現職の教職員や在校生とその家族など、東北大学の関係者が会員となっており、部局別同窓会・登録同窓会・年次別同

お知らせ



は私の乏しい英語力でも最低限のことは伝えられる、という自信が付きました。また、世界中には様々な研究を行っている人達が大勢いるのを目の当たりにして、大変刺激を受けました。これらの貴重な経験を、今後の研究や検査技師としての業務の中、といった様々な場所で、最大限に生かしていきたいよう努力したいと思います。

また最後に、AHAのような大規模な学会での発表機会を与えて下さった、進藤教授、三浦准教授、研究に携わって下さった方々に感謝したいです。

第16号も皆様のご協力の下、無事に発行することができました。興味のある記事だけでも目を通していただければ幸いです。作成に関わっていた先生方、学生の皆さんに感謝いたします。

半藤徹也、石塚裕也、武石陽子

編集後記

東北大学大学院医学系研究科
 第10回 リトリート大学院生研究発表会
若手がつなぐ 医学研究の開拓と融合
 ～ダイバーシティが創る未来への可能性～
 2017. 1. 14 (土)
 9:00～19:00 (受付 8:30～9:00) 予定
 @ 星陵会館・星陵オーデトリウム

Facebook URL: <https://www.facebook.com/Retreat.TohokuUnivMed/>

◆第10回リトリート大学院生研究発表会について
 ・日時平成29年1月14日(土)
 ・場所星陵オーデトリウム

hoken@alumni.med.tohoku.ac.jp

窓会の3つの基礎同窓会から構成され、本会運営の基礎単位となっています。この度、部局別同窓会(学部、研究科、附置研究所等の別により組織される同窓会のこと)に医学部保健学科同窓会が入会しましたので、お知らせ致します。

(部局別同窓会一覧URL: <http://www.bureau.tohoku.ac.jp/alumni/alumni.html#contents02>)

保健学科同窓会では、卒業生の皆さんの情報を名簿として管理しています。結婚等による氏名変更や住所変更があった場合には、下記アドレスまでご連絡ください。